

環境経営レポート

株式会社 モリックス

《ご挨拶》

当社は昭和47年創業以来、金属プレス加工、プラスチック成型、及び金型製作を主体として歩んでまいりました。
金属部品とプラスチック部品の融合部、モジュール品を得意とし、金型製作から部品加工までの一貫製作をおこなっております。
当社は環境経営に本格的に取り組み始めて16年余りが経ちますが、今後も慢心することなく、現在の素晴らしい環境を次世代に残すため、何が出来るかを考え、取り組んでいく所存です。
以下、「環境経営レポート」としての取り組みをまとめましたので、私たちの取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に生かして行きたいと存じます。

株式会社 モリックス
代表取締役社長
柳澤 大輔

《目次》

1. 組織の概要	P-1
2. 対象範囲	P-1
3. 環境経営方針	P-2
4. 環境経営目標	P-3
5. 環境経営計画	P-3
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	P-4
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P-5・6
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	P-7
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P-7

1. 組織の概要

1. 事業所及び代表者名

株式会社 モリックス
代表取締役社長 柳澤 大輔

2. 所在地

〒370-2216 群馬県甘楽郡甘楽町大字金井277-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

<代表責任者及び環境管理責任者>

代表取締役社長 柳澤 大輔
担当 : 同上
TEL : 0274-60-4071
FAX : 0274-74-6371

4. 事業の内容

金属プレス加工 プラスチック成型 金型製作

5. 事業規模

活動規模	単位	2024年度	2025年度
従業員数	人	6	6
資本金	万円	1000	1000
延べ床面積	m ²	880	880

2. 対象範囲

1. 対象範囲（認証・登録範囲）

株式会社モリックス 全組織及び全活動

環境経営方針

〔基本理念〕

当社は、環境に対する社会的使命と責任を、果たすことを経営の重要課題と位置付け、全社員は環境保全施策を推進します。

〔基本方針〕

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取り組みます。

1. 当社の主力事業である、金型製作・板金プレス加工・プラスチック成形の各領域において、技術的・経済的な事情を考慮の上、環境に与える影響を低減するとともに、循環型社会の実現に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用化石燃料削減・廃棄物の削減に努めます。
 - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再生利用の向上に努めます。
 - ③限りある水は、使用量削減のため節水に努めます。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取り組みます。策定した目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直します。
3. 事業活動において、環境に関わる法律・規制その他公的基準を遵守します。
4. この環境方針が、確実に実施され、維持されるよう年度教育・訓練計画に取り込み、全社員に周知します。
5. 地域社会への調和と融和に配慮するとともに、適切な環境管理を行います。



2021年 4月 1日

株式会社 モリックス

代表取締役

柳澤 大輔

4. 環境経営目標 5. 環境経営計画

環境経営目標（環境経営レポート対象期間）				環境経営計画（環境経営レポート対象期間）	
	項目	基準年 （実績）	2025年度 目標	実施事項	
1	売り上げ100万円当り 二酸化炭素排出量の維持 (kg/百万円)	2022年度	2022年度に対して0.1% の削減	①空調温度適正化・表示	
		510.43		②照明・PC電源不要時のOFFの推進	
				40834.25 (kg-CO2)	③エアコン清掃の実施
					④エコドライブ推進
					⑤社用車の点検・整備
					⑥原因分析と削減方法の検討
					⑦使用電力の最大値の削減
2	売り上げ100万円当り 廃棄物排出量の維持 (kg/百万円)	2022年度	2022年度に対して0.1% の削減	①分別ルールの徹底	
		7.6		②廃棄物置場の整備	
				180 (kg)	③産廃業者との契約書の確認
					④マニフェスト管理方法の確立
					⑤裏紙使用ルールの徹底
					⑥原因分析と削減方法の検討
3	従業員一人当たりの 水使用量の維持 (m³)	2022年度	2022年度に対して0.1% の削減	①毎月のメータを確認する(漏水防止)	
		9		②節水表示	
				③増量ノズルへの交換	
				④原因分析と削減方法の検討	
4	化学物質 取扱及び 管理の徹底	—	取扱商品の調査	①取扱商品(化学物質含有)の調査	
				②購入量の把握	
				③SDSの入手	
5	本業に関する目標	①端材をより少なくする設計			
		②端材リサイクルの推進			
		③プラスチックリサイクルの推進			

※ ①と②の実績は、上段は目標に対しての実績、下段は総排出量。

※ 2022年度実績の二酸化炭素排出係数は、東京電力・令和4年度公表（0.457）で算出。

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

空調温度適正化・表示



節水表示



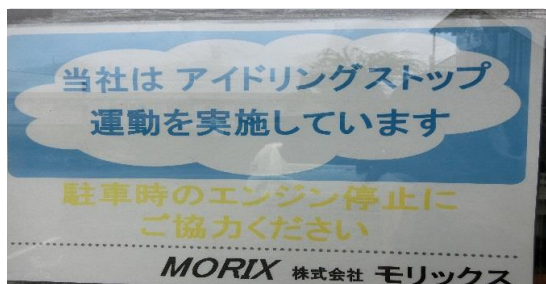
環境に配慮した取組等



施設内の照明LED化90%以上達成



廃棄物の分別表示

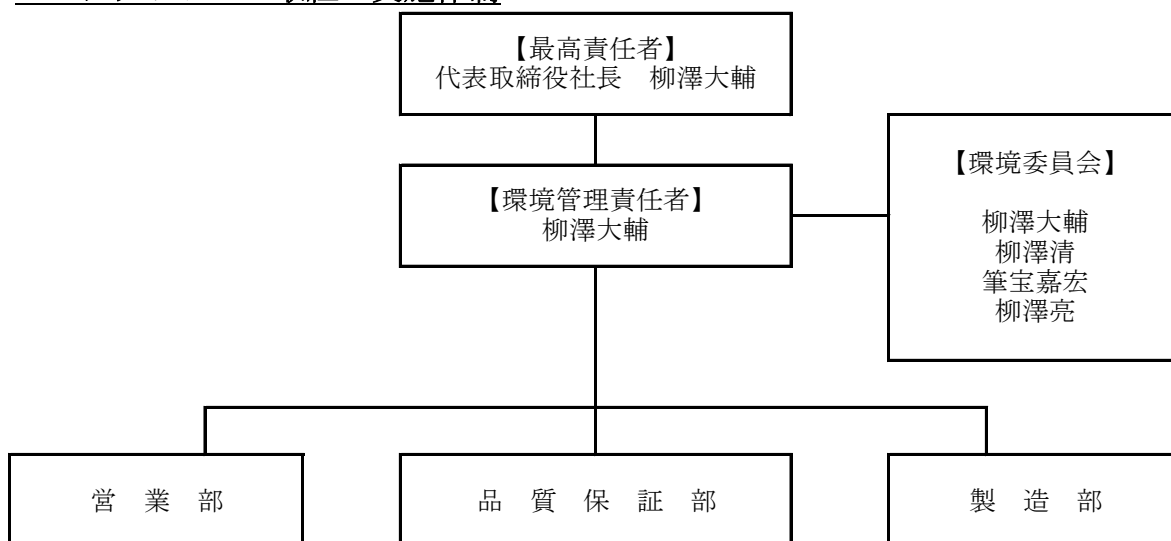


アイドリングストップ運動



敷地内の緑化

エコアクション21取組の実施体制



7. - 1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境経営目標（環境経営レポート対象期間）							環境経営計画（環境経営レポート対象期間）	
	項目	基準年 （実績）	2025年度 目標	2025年度 目標値	2025年度 実績	目標の達 成状況	実施事項	評価
1	売り上げ 100万円 当り二酸化炭素 排出量の削減	2022年度	2022年 度に対し て0.1% の削減	509.92	541.5	未達成	①空調温度適正化・表示	◎
		510.43					②照明・PC電源不要時のOFFの推進	◎
							③エアコン清掃の実施	○
							④エコドライブ推進	○
							⑤社用車の点検・整備	◎
							⑥原因分析と削減方法の検討	○
							⑦使用電力の最大値の削減	○
2	売り上げ 100万円 当り廃棄物排出 量の削減	2022年度	2022年 度に対し て0.1% の削減	7.59	7.45	達成	①分別ルールの徹底	◎
		7.6					②廃棄物置場の整備	◎
							③産廃業者との契約書の確認	◎
							④マニフェスト管理方法の確立	◎
							⑤裏紙使用ルールの徹底	○
							⑥原因分析と削減方法の検討	○
3	従業員 一人当 たりの水 使用量の削減	2022年度	2022年 度に対し て0.1% の削減	8.99	13	未達成	①毎月のメータを確認する（漏水防止）	○
		9					②節水表示	◎
							③増量ノズルへの交換	○
							④原因分析と削減方法の検討	○
4	化学物質取扱 及び管理の徹底	—	取扱商 品の調 査	—	—	達成	①取扱商品（化学物質含有）の調査	◎
							②購入量の把握	◎
							③SDSの入手	◎
5	本業に 関する 目標	①端材をより少なくする設計				実績値		◎
		②端材リサイクルの推進						◎
		③プラスチックリサイクルの推進					年間800kg再生利用	◎

※環境経営計画の取組・評価【◎良く取組めた・○取組めた・△取組みが不足していた・×取組めなかった】

※主な環境負荷実績

環境負荷	2022年度 （基準年）	2025年度 （環境活動レポート対象期間）
①二酸化炭素排出量（kg-CO ₂ ）	40834.25	37907.11
②廃棄物排出量（kg）	90	61
③水資源投入量（m ³ ）	63	78

7. - 2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標(環境経営レポート対象期間の次年度及び中長期目標)						環境経営計画(環境経営レポート対象期間の次年度)
	項目	基準年 (実績)	2026年度 目標	2027年度 目標	2028年度 目標	実施事項
1	売り上げ100万円当り二酸化炭素排出量の削減	2025年度 (kg-CO2/100万円)	2025年度 に対して0.1%の削減	2025年度 に対して0.1%の削減	2025年度 に対して0.1%の削減	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥原因分析と削減方法の検討 ⑦使用電力の最大値の削減
2	売り上げ100万円当り廃棄物排出量の削減	2025年度 (kg/100万円)	2025年度 に対して0.1%の削減	2025年度 に対して0.1%の削減	2025年度 に対して0.1%の削減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認 ④マニフェスト管理方法の確立 ⑤裏紙使用ルールの徹底 ⑥原因分析と削減方法の検討
3	従業員一人当たりの水使用量の削減	2025年度 (m ³ /総従業員数)	2025年度 に対して0.1%の削減	2025年度 に対して0.1%の削減	2025年度 に対して0.1%の削減	①毎月のメータを確認する(漏水防止) ②節水表示 ③増量ノズルへの交換 ④原因分析と削減方法の検討
4	化学物質取扱及び管理の徹底	—	取扱商品の調査	取扱商品の調査	取扱商品の調査	①取扱商品(化学物質含有)の調査 ②購入量の把握 ③SDSの入手
5	本業に関する目標	①端材をより少なくする設計 ②端材リサイクルの推進 ③プラスチックリサイクルの推進				

次年度の環境経営目標及び環境経営計画について

2025年度は電力消費量は削減出来たものの、売り上げ減少の影響で目標達成出来なかった。ただ、元々の基準が厳しく設定されていたことを踏まえ、2025年度基準で新たな目標を設定し、2026年度から3年間運用する。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
大気汚染防止法(群馬県の生活を保護する条例)	届出	遵法
下水道法	届出	遵法
騒音規制法	届出	遵法
振動規制法	届出	遵法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託業者との契約とマニフェスト管理 ・水銀使用製品の保管、処理委託、収集・運搬、処分・再生を適切に行う	遵法
労働安全衛生法	作業主任者の選任	遵法
消防法	消防用設備の設置・点検	遵法
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2026年3月31日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

総括：

2025年度（2025年4月～2026年3月）の環境負荷状況について確認した結果、エネルギー使用に伴うCO₂排出量は年間37,907kg-CO₂となった。内訳としては購入電力による排出が30,057kg-CO₂で全体の約79%を占めており、当社の環境負荷の主要因となっている。次いで社有車で使用する軽油およびガソリンが約18%を占めている。

エネルギー使用量は主に電力使用量65,771kWh、ガソリン1,412L、軽油1,337Lであった。今後は設備の省エネルギー化や照明・空調の効率的な運用、社有車のエコドライブ推進などにより、さらなるエネルギー削減を図る必要がある。

廃棄物については、一般廃棄物が年間61kg発生した一方、産業廃棄物および特別管理産業廃棄物の排出はなかった。廃棄物排出量は比較的少ない水準で管理されており、引き続き分別の徹底と発生抑制に努める。水使用量は年間78m³であり、事業活動における水資源への負荷は限定的であった。今後も節水意識の向上と適正管理を継続する。

総じて、当社の環境負荷は主に電力使用に起因していることが明確である。2026年度も省エネルギー活動を重点課題として継続するとともに、廃棄物削減、資源の有効利用、水使用量の適正管理を推進し、環境負荷の低減と持続可能な事業活動の実現に努めていく。